総合心療センター　デイケアメンタル

室長　川渕　忠義

はじめに

令和 4 年（2022 年）は、新型コロナウィルス感染症対策も 3 年目となり、昨年に引き続いて利用者、スタッフともに長期間、多大なストレスに晒された一年であった。このような状況のなか､感染拡大による自粛や閉鎖等の対応を一度もすることなく運営できたことは､利用者、スタッフが協力してこそ実現できたことである。この場を借りて、利用者、利用者家族、スタッフなどかかわったすべての方へ感謝の言葉をおくりたい。コロナ禍前のような治療環境に戻しつつ、治療の質を落とさないことを主眼に取り組んだが、利用者数についてはいまだ回復の兆しはなく、経営状況としては苦しい状況が続いている。それでも在宅支援、就労支援の動きは止めることなく、今できることを精いっぱい取り組む姿勢だけは忘れず、継続していく体力をつけることができた一年であった。

運営状況

デイケアメンタルの運営体制は、スタッフの異動はなくリーダーである作業療法士 1 名、看護師 1 名、公認心理師 1 名の計 3 名を中心に配置。加えて、週 1.5 日ベテランの作業療法士がサポートに入る体制で運営をおこなった。ベテランスタッフを配置することでチームワークの良さ、対応力、評価・査定といった側面において精度の高い臨床を実現できた。運営の軸である活動においては、自粛や制限といったことから少しずつ解放され、新しい取り組みも実践することができている。次年度は、利用者増に向け、それぞれのスタッフの守備範囲を広げていく必要はあり、スタッフ教育、個々のスキルアップに力を入れていきたい。

実績

活動実績としては、年間利用者数は昨年に続いて新型コロナウィルス感染症の影響もあり、利用者数の減少は続いている状況である。しかし年間入退所者数については、入所 33 名、退所 31 名と昨年より入所、退所ともに増加しており回転率は改善傾向であった。しかし、一日平均利用者数については登録者数の減少もあり、12.5 名となっている。個別のケースをみていくとコンスタントに通所を継続する方は一定数おり、安定した通所が継続できていることはよい循環の兆しととらえられる。精神科デイケアの本来の目的である心理社会的リハビリテーションの実践の場であることを念頭に置き、早期に地域へつなぐ、社会（就労）への橋渡しとしての役割はおおむね実践していることから、今後も地域で必要とされる施設となれるよう取り組んでいきたい。また長期利用者の頻回（週 3 日以上通所）のデイケア利用については、限りなく 0 に近い状況である。今後も適切なタイミングでの就労支援事業所や地域へつなげていけるよう努力したい。

入所者紹介元の内訳は、外来からが半数近くを占めており、ついで入院となっている。当院入院、外来については、昨年より継続して連携強化を図り、他院やクリニックについても受け入れ幅の拡大と丁寧な支援を心掛けていきたい。疾患別内訳においては、例年との大きな変化はなく、統合失調症が最も多く、次いで発達障害、その他となっている。統合失調症の対象者については、心理社会的リハビリテーション機能の充実を図り、積極的に地域移行することや就労支援の実践をおこなっていきたい。発達障害、その他の疾患についても、これまで以上の取り組みができるよう、まずは日々進歩する医療の最新知識をつけ、個々のスキルアップを図っていきたい。

おわりに

ここ数年のコロナ禍は苦しい状況ではあったが、逆にメリットとは何か考えた結果、それは利用者、スタッフが一致団結して現状を切り抜けていく体験をともにできたことではないかと考える。もともと精神科デイケアはスタッフ、利用者が体験を共有することができる場所であり、それが治療であり支援につながっていくところであるため、ここ数年の出来事は決して無駄ではなく、今後の糧となっていると考える。暗く、閉塞感が漂う状況から、少しずつではあるが改善の兆しも見えていることから、次年度はこれまで蓄積されていたストレスから解放され、たまったエネルギーを自己実現に向けていけるような取り組みをしていきたい。